

「ウルグアイのホセ・ムヒカ前大統領」

2016年04月08日

ウルグアイのホセ・ムヒカ前大統領が来日し、彼の生き方と発言が注目されている。ウルグアイは日本人にはあまり関心が持たれていない国であろう。ブラジルの南端に接する人口300万人くらいの小国である。

ムヒカ氏は60年代初期に当時の独裁政権に対抗するゲリラ組織に参加し、民主化のために闘い、政治犯として逮捕され13年間の獄中生活を強いられている。拷問、虐待を受け、誰とも話せない独房にも入れられ、精神的に異常をきたしたこともあったという。解放後、94年に政治家として活躍を始め、2010年に大統領になり、5年の任期を終えて退任した。南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領の生涯と重なるような人生を送っている。

ムヒカ氏が「世界で一番貧しい大統領」と呼ばれ、注目を集めたのは2012年にブラジルで開催された「国連持続可能な開発会議」での演説であった。「貧乏とは少ししか持っていないことではなく、無限に多くを必要とし、もっともっとと欲しがることです」「乗り越えなければならないのは、私たちの文明のモデルであり、見直すべきは私たちの生き方なのです」。居並ぶ各国首脳を前に、大量消費社会やグローバリズムを批判した。

給料の8~9割を、慈善事業と自分の所属する政党に寄付し、寄付することを「私にとって、それは義務です」と言い、また、貧しい子どもたちを受け入れる農業学校を自分の農園に作るための貯金をしている。大統領官邸を使わず、小さな平屋の自宅に住み、大統領専用車も使わず、30年くらい前の愛車に乗っている。ネクタイを締めることはなく、服装はいつもラフである。ムヒカ氏は「私は貧乏ではない。質素なだけです」「質素な生活は自分のやりたいことをする時間が増える。それが自由だ」と言っている。ブラジルで宣教している堀江節郎神父が横浜港南台教会で説教された時、Tシャツ、ジーパン姿であった。堀江神父も何も持たない人であった。「歩いていると、主イエスの風がフーと吹いて来んです」と言っていた。真の自由を味わっているのではないか。

ムヒカ氏は質素な生活の中から、戦争やテロ、貧困や格差、気候変動や環境汚染など、現在の世界が抱えている様々な問題に関し、問いを発している。「もはや一国では解決できる問題ではないが、世界全体での合意は存在しない。世界的な政治的決断が求められているにもかかわらず、私たちはそれを下せずにいる」「世界は多くの富を抱え、技術も進歩した。しかし、資本主義は盲目で、誰もそれを止めることはできない。それが資本主義の『美しき悲劇』だ。私たちは幸せに生きているのだろうか。」

ムヒカ氏の「日本に来て広島を訪れないのは日本国民の皆さんに対して敬意に欠けるのではないか」という言葉に、生き方の誠意さを見せられ感動する。

東京都内で、マスコミ関係者との取材に応じ、日本政府が憲法解釈を変更し、他国を武力で守ることを可能にした安保関連法を制定したことについて「日本が先走って大きな過ちを犯していると思う」と批判した。また「軍備の拡張は世界的に大きな問題であり、経済的な観点から見ても非常に深刻だ」と、軍拡費用を格差の解消や地球温暖化対策などに使えばいいのにと憂慮の言葉を語った。ムヒカ氏の生き方は清々しく、発言は人々に感銘を与えている。久しぶりに真実な言葉を聞かされたという思いにさせられた。

貧しさは人の心を萎えさせる。年収200万円では生きる意欲と希望を持つことはできない。ムヒカ氏は「政治とは全ての人の幸福を求める闘い。指導者の仕事は、多数派の貧しい人々の利益を代表すること」と言っている。このような政治指導者を参議院選挙（ダブル選挙？）で選びたい。少なくとも、平気でウソをつく人は退陣させたいものである。